独立行政法人
大学改革支援・学位授与機構
National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

機構ニュース

Vol.257 2024 November

今月の記事

Top News

○ 令和６年度大学質保証フォーラム 「質保証の地殻変動―英国の最新動向から学ぶ」を開催 ・・・・・・・・・1

助成事業

○ 「大学・高専機能強化支援事業」の「令和５年度実施状況報告書とりまとめ結果」について ・・・・・・・・3

質保証連携

○ NIC-Japan セミナーシリーズ「ベトナムの教育制度・外国資格承認」を開催 ・・・・・・・・4

学位授与事業

短期大学・高等専門学校卒業者等を対象とする単位積み上げ型の学位授与関係

○ 令和６年度１０月期申請における試験日程について ・・・・・・・・5

○ ２４０人に学士の学位を授与 ―令和６年度４月期申請分― ・・・・・・・・6

主要行事日程

○ Schedule（１１月～１月） ・・・・・・・・8

Top News

○ 令和６年度大学質保証フォーラム「質保証の地殻変動―英国の最新動向から学ぶ」を開催

当機構は、令和６年１０月９日（水）に、令和６年度大学質保証フォーラムを開催しました（後援：公益財団法人大学基準協会、公益財団法人日本高等教育評価機構、一般財団法人大学・短期大学基準協会、一般財団法人大学教育質保証・評価センター、認証評価機関連絡協議会、アジア太平洋質保証ネットワーク（APQN：Asia-Pacific Quality Network））。

今年度はオンライン・会場のハイブリッド形式で開催し、高等教育機関関係者を中心に国内外から約３７０名の参加がありました。

今回は「質保証の地殻変動―英国の最新動向から学ぶ」をテーマに、英国高等教育質保証機構（QAA：Quality Assurance Agency for Higher Education）機構長の Vicki Stott 氏から、近年の英国の高等教育質保証制度の大きな変化とその本質的意味についてお話を伺うとともに、日本の高等教育機関質保証の将来像を模索するために議論しました。

全体進行を森研究開発部教授が務め、プログラム前半では服部機構長の開会挨拶に続き、Stott氏による基調講演が行われました。

Stott 氏の基調講演の様子

Stott 氏からは、はじめに QAA の概要として、1997 年に設立された独立・非営利の質保証機関であり、国内の 275 の高等教育機関による会員制度を有しているとの紹介がありました。次いで、英国の高等教育質保証のモデルは、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドそれぞれで異なり、QAA の業務範囲も各地域のセクターのニーズによって異なっているが、近年の傾向として、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドでは質保証と規制の全体的な方針の整合性が増しつつある一方、イングランドのアプローチは異なる方向に進んでいることが述べられました。そして、各地域の質保証制度についての解説がありました。

特にイングランドに関する説明では、登録審査の一部を受託していた高等教育機関登録制度からの撤退による、QAA の役割の変化について言及がありました。機関登録制度が質のベースライン（最低要件）の充足を重視している一方、QAA としては撤退により、ベースラインを超えた高等教育の質を実現するために、会員校向けに助言やガイダンス、グッド・プラクティスの提供といった支援を行うなど、高等教育の環境の変化に対応した多用途で柔軟な活動ができるようになったことが強調されました。また、人工知能（AI）の進展による高等教育への影響を踏まえ、QAA は機動的に関連情報を提供しており、将来 AI の存在が当たり前となった社会に高等教育がどのように適合するかを考え、アカデミック・スタンダードを確保し、学生の学習体験を向上させるような AI の活用に重点を置きたいとの意見も述べられました。

会場の様子

ディスカッションの様子

プログラム後半の質疑応答・ディスカッションでは、戸田山研究開発部長がモデレーターを務め、参加者との質疑応答を交えながら、テーマを巡る議論が展開されました。参加者からは、QAA の質保証活動への学生の参画や、レビューパネルへの産業界や外国からの登用の状況、評価におけるグッド・プラクティスの抽出方法についての質疑応答がありました。

教育界での AI の活用が英国でどの程度進んでいるかとの質問では、AI の果たすべき役割や適切に活用するためのガイドラインの必要性に対する QAA の認識が説明されました。また、QAA が撤退した高等教育機関登録制度の実施主体である学生局（OfS：Office for Students）については参加者の関心も高く、その役割について QAA との比較を交えながら回答がありました。さらに、大学の自治の担保や大学が認証評価を受ける意義といった話題にも及び、活発な意見交換が行われました。最後に光石理事の閉会挨拶により、盛況のうちに閉会しました。

なお、講演資料は当機構ウェブサイトの大学質保証フォーラムページに掲載しております。ぜひご覧ください。

助成事業

○　「大学・高専機能強化支援事業」の「令和５年度実施状況報告書とりまとめ結果」について

「大学・高専機能強化支援事業」に選定された大学等より提出のあった令和５年度実績に係る実施状況報告書について「フォローアップ要項」に定める観点を踏まえ確認し、全体状況をとりまとめた結果を公表しました。

＜とりまとめ結果概要＞

全体として、選定校の約８割において、当初の構想・計画に沿って着実に事業を推進していることが確認されました。一方で、教員確保等の課題により計画の遅れがみられる選定校や令和 6 年度に学部開設等した選定校の一部に定員未充足が見られました。

また、上記に関連し、各大学等から提出された「令和５年度実施状況報告書」及び「大学・高専機能強化支援事業選定委員会所見」を公表しました。

詳細については、機構ウェブサイトをご確認ください。

・フォローアップ
・令和５年度選定

質保証連携

○ NIC-Japan セミナーシリーズ「ベトナムの教育制度・外国資格承認」を開催

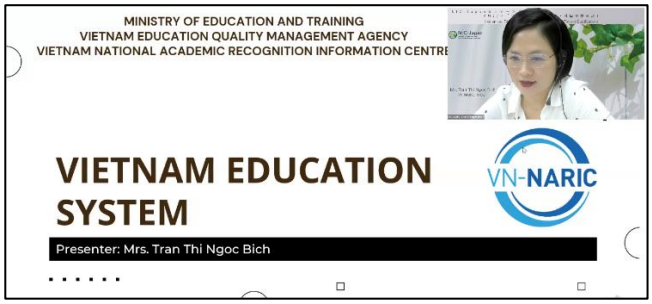
当機構の高等教育資格承認情報センター（NIC-Japan）では、学生や研究者の国際的なモビリティ向上を目的とした高等教育資格の円滑な承認に資する情報提供活動の一環として、海外の教育制度や資格審査の事例など、資格承認にまつわる諸テーマについて国内外の有識者よりお話しいただく「NIC-Japanセミナーシリーズ」を2021年より開催しています。

今回は 2021 年 12 月に取り上げたベトナムの教育制度についての第２弾として、９月 27 日（金）に「ベトナムの教育制度・外国資格承認」をテーマにオンラインで開催しました。講師には第１弾に引き続きベトナム教育訓練省 教育質管理庁 学術承認情報センター（VN-NARIC）のディレクターである Tran Thi Ngoc Bich氏および同センターの専門家であるPham Khanh Huyen氏をお招きしました。当日は国内外の大学等で入試業務や国際業務に携わる教職員を中心に約 170 名の参加がありました。

はじめに NIC-Japan の森利枝センター長から挨拶があり、講師への謝意と今回のセミナーに対する期待が示されました。講演では、前回のセミナーにおいて高い関心が寄せられたベトナムでの各高等教育課程への入学資格について、証明書のサンプルを用いつつわかりやすい解説がなされました。また、VN-NARIC の行う外国資格承認について、業務の流れやベトナムとは異なる教育制度の中で得られた資格に対する承認を行うにあたっての課題等、包括的な説明がありました。

講演後には熱心な質疑応答が交わされ、盛会のうちに終了しました。

なお、今回のセミナーシリーズで使用した資料は、NIC-Japan のウェブサイトからダウンロードすることができます。



講演の様子

（上左）Bich 氏、（上右）Huyen 氏及び
（下）モデレーターの堀田シニアアドバイザー

学位授与事業

短期大学・高等専門学校卒業者等を対象とする単位積み上げ型の学位授与関係

当機構では、短期大学や高等専門学校を卒業、あるいは専門学校を修了するなど、すでに高等教育機関において一定の学習を修めた者に対して、審査の上、学士の学位を授与しています。

当機構の「学士の学位」を取得するためには、上記学校を卒業または修了するなど一定の学習を修めた後、大学において科目等履修生制度を利用するなど必要な単位を修得し、「修得単位の審査」及び「学修成果・試験の審査」を受ける必要があります。両方の審査に合格すると、大学卒業者と同等以上の学力を有すると認められ、「学士の学位」が授与されます。

（※短期大学・高等専門学校卒業者等を対象とする単位積み上げ型の学位授与（学士）について詳しく知りたい方は、こちらをご覧ください。）

学位授与申請は、毎年度２回（４月期と 10 月期）受け付けており、令和６年度 10 月期においては、547 人の申請を受け付けました。令和６年度 10 月期は、12 月８日（日）に面接試験を東京で実施し、12 月 15 日（日）に小論文試験を東京、大阪の２地区で実施します。最新情報を機構ウェブサイトに随時掲載しますのでご注意ください。

○ 令和６年度10月期申請における試験日程について

１　試験日・試験場

試　験　の　区　分	試　験　場	試　験　日　時
小論文試験 （学修成果として レポートを提出した者）	**東京地区** 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 小平本館 （東京都小平市学園西町１－29－１）	令和６年 12 月 15 日（日） 10 時 30 分～12 時 00 分 14 時 30 分～16 時 00 分
	大阪地区 大阪私学会館 （大阪府大阪市都島区網島町６－２０）	令和６年 12 月 15 日（日） 10 時 30 分～12 時 00 分 14 時 30 分～16 時 00 分
面接試験 （専攻の区分「音楽」、「美術」、「演劇」のいずれかでレポート以外の学修成果を提出した者）	**東京地区** 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 小平本館 （東京都小平市学園西町１－29－１）	令和６年 12 月８日（日） 面接試験時間は受験票で ご確認ください。

２　受験票などの送付

受験票は、受験者心得とともに試験日の 10 日前までに送付しています。なお、注意事項等も同封しますので、必ず内容をご確認ください。

［お問合せ先］

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構管理部学位審査課

〒187-8587　東京都小平市学園西町１－２９－１

電　　話：０４２－３０７－１５５０（問合せ専用）

受付時間：9:00～12:00　13:00～17:00（土・日曜、祝日、年末年始を除く。）

○ 240 人に学士の学位を授与　－令和６年度４月期申請分－

令和６年度４月期に学士の学位授与申請のあった短期大学、高等専門学校卒業者及び専門学校修了者等 290 人のうち、240 人に対し学士の学位を授与しました。

今回の学士の学位授与については、各専門委員会・部会で行われた修得単位の審査及び学修成果・試験の審査に基づき、令和６年８月 23 日（金）開催の学位審査会において審査が行われました。

〈令和６年度４月期学士の学位授与申請者数及び取得者数〉

（専攻の区分別）

専攻分野の名称	専攻の区分	申請者数（人）	取得者数（人）
文学	英語・英米文学	2	1
	中国語・中国文学	1	1
	心理学	1	1
教育学	教育学	7	4
社会学	社会学	1	1
教養	国際関係	1	1
学芸	科学技術研究	1	1
社会科学	社会科学	1	1
法学	法学	2	2
理学	数学・情報系	2	1
	生物学系	1	0
薬科学	薬科学	3	2
看護学	看護学	208	176
保健衛生学	検査技術科学	6	6
	臨床工学	8	7
	放射線技術科学	9	5
	理学療法学	1	1
	作業療法学	1	1
	言語聴覚障害学	1	1
鍼灸学	鍼灸学	1	1
口腔保健学	口腔保健衛生学	1	1
栄養学	栄養学	5	3
工学	機械工学	1	1
	情報工学	4 [1]	2 [1]
	建築学	1	0
	社会システム工学	1	1

専攻分野の名称	専攻の区分	申請者数（人）	取得者数（人）
商船学	商船学	15 [15]	15 [15]
農学	農学	1	1
芸術学	美術	3	2
合計		290 [16]	240 [16]

※［］内は特例適用専攻科修了見込での申請者数及び取得者数で内数。

主要行事日程

○ Schedule

１１月

日	行事名	担当課
７日	学位審査会（令和６年度第３回）	学位審査課

１２月

日	行事名	担当課
４日	大学ポートレートステークホルダー・ボード	評価企画課
５日	令和６年度 大学・高専機能強化支援事業選定委員会（第3回）	事業推進課
８日	令和６年度10月期学位授与試験（面接）（東京地区）	学位審査課
１３日	令和６年度第２回大学等の質保証人材育成セミナー	評価企画課
１５日	令和６年度10月期学位授与試験（小論文）（東京地区、大阪地区）	学位審査課
１６日	NIC-Japan セミナーシリーズ 「インドの教育制度・高等教育資格」	国際課

１月

	行事名	担当課
２２日	国立大学教育研究評価委員会（第 76 回）	国立大学評価室
２４日	令和６年度大学機関別認証評価委員会（第３回）	評価支援課
２８日	令和６年度法科大学院認証評価委員会（第２回）	評価支援課
２９日	令和６年度高等専門学校機関別認証評価委員会（第２回）	評価支援課

訪問調査

日	行事名	担当課
１０月～１１月	訪問調査（大学、高等専門学校、法科大学院）	評価支援課

独立行政法人
大学改革支援・学位授与機構
National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education